

第167期 (平成16年度) 中間決算説明会

内 容

1. 説明

- (1) 第167期 (平成16年度) 中間業績の概況
- (2) 第167期 (平成16年度) 決算分析と下期への展望
- (3) R&D推進状況と見通し

2. 質疑応答

以上

📅 日時:平成16年11月24日

📍 会場:東洋インキ製造(株) 会議室

**本資料中の計画、予想は平成16年11月24日現在の認識・前提にたっており、
これからの国際情勢、経済事情、事業環境等に著しい変化があった場合には、
実際の業績が記載と大きく異なる可能性があります。**



第167期 (平成16年度) 中間業績の概況

中計の重点テーマ	平成16年度経営方針
<p>1. 成果を志向する スピード経営体制 への移行</p>	<p>1. 事業を営業力により拡張・進化させる</p>
<p>2. 価値経営の実践</p> <p>(1) 全体最適化戦略と キャッシュフロー経営</p> <p>(2) 個別事業の執行責任</p>	<p>2. 収益向上のため、有形のモノ、金、人数の節約を徹底する</p> <p>3. CSR (コーポレート・ソーシャル・レスポンスィビリティ) 重視の真のSSにチャレンジする</p>

(単位:億円)

科 目	平成16年度 9月期	平成15年度 9月期
売上高	1,124	1,059
売上原価	843	805
販売費・一般管理費	211	214
営業利益	69	39
営業外収益	15	10
営業外費用	10	13
経常利益	74	36

科 目	平成16年度 9月期	平成15年度 9月期
特別利益	0	12
特別損失	28	11
税引前 当期純利益	46	37
法人税、住民税 及び事業税	10	9
法人税等調整額	7	5
少数株主損益	2	2
当期純利益	26	19

【前年同期比】

売上	6.1%	
売上原価比率	76.0%	75.0%
対売上営業利益率	3.7%	6.2%
対売上経常利益率	3.4%	6.6%

対売上税引前純利益率	3.5%	4.1%
対売上当期純利益率	1.9%	2.3%

連結貸借対照表の要旨

(単位:億円)

科目	平成16年度 9月期	平成16年度 3月期
流動資産	1,313	1,296
固定資産	1,360	1,382
繰延資産	0	0
資産合計	2,674	2,680
流動負債	940	946
固定負債	473	479
負債合計	1,413	1,426
少数株主持分	35	33

科目	平成16年度 9月期	平成16年度 3月期
資本金	246	246
資本剰余金	258	258
利益剰余金	734	720
その他有価証券 評価差額	28	39
為替換算調整勘定	41	42
自己株式	1	1
資本合計	1,224	1,220
負債、少数株主持分 及び資本合計	2,674	2,680

	連結会社 従業員人数 (人)	連結 子会社 (社)	持分 会社 (社)	総資産 (A)	株主資本 (B)	株主資本 比率 (B/A) (%)	ROA (%)	ROE (%)	有利子 負債	保証 債務
平成16年度 3月期	6,064	65	11	2,680	1,220	45.53	1.31	2.92	852	37
平成16年度 9月期	6,055	64	10	2,674	1,224	45.80	* 1.96	* 4.29	824	33

* 通期換算

(単位:億円)

	連結会社 従業員人数 (人)	連結 子会社 (社)	持分 会社 (社)	総資産 (A)	株主資本 (B)	株主資本 比率 (B/A) (%)	ROA (%)	ROE (%)	有利子 負債	保証 債務
平成14年度 9月期	6,610	67	13	2,683	1,171	43.7	* 1.45	* 3.39	913	46
平成14年度	6,362	67	12	2,647	1,162	43.9	0.77	1.79	903	43
平成15年度 9月期	6,210	67	11	2,646	1,201	45.4	* 1.49	* 3.34	846	40
平成15年度	6,064	65	11	2,680	1,220	45.5	1.31	2.92	852	37
平成16年度 9月期	6,055	64	10	2,674	1,224	45.8	* 1.96	* 4.29	824	33

* 通期換算

(単位:億円)

科 目	平成15年度 9月期	平成16年度 9月期	平成16年度 (予想)
売上高	1,059	1,124	2,250
営業利益	39	69	122
経常利益	36	74	125
当期純利益	19	26	50
総資産	2,646	2,674	2,700
株主資本	1,201	1,224	1,240
株主資本比率 (%)	45.4	45.8	45.9
ROA(%)	* 1.49	* 1.96	1.86
ROE(%)	* 3.34	* 4.29	4.06

科 目	平成16年度 9月期	平成16年度 (予想)
連結会社 従業員人数(人)	6,055	6,000
連結子会社 (社)	64	60
持分会社 (社)	10	10
有利子負債	824	820
保証債務	33	30

* 通期換算

第167期(平成16年度)決算分析と下期への展望

印刷インキ

(単位：億円)

	売上高	営業利益
平成15年度 9月期実績	425	44
平成16年度 9月期実績	429	46
平成16年度 予想	886	91

通期の施策

1. 地球環境への貢献、循環型社会形成への貢献、食品包装文化への貢献を通し顧客のベストパートナーとなれるビジネスで収益向上をめざす
2. ディスプレイ周辺をターゲットとした高機能材料とビジネス開発
3. 中国・東南アジアの重点投資

実行結果

- ✖ オフセットインキ、新聞インキとも価格競争が続き、数量増。売上若干減少。
- ✖ グラビアインキは、パッケージ関連は環境調和型新製品を中心に好調。出版・建装材は低調。
- ✖ オプトロニクス関連の機能製品の実績化。
- ✖ 効率化を狙った国内拠点の統合は完了。
- ✖ 上海新会社の生産開始により、開業費が発生。

下期の展望

- ✖ 埼玉製造所への生産・技術の拠点集約により、水性・Non-VOC・インクジェット・トナーなど、製品バリエーションの拡大を図る。また、成熟市場で生き抜けるコストダウンを確立する。
- ✖ 中国上海の新会社でのグラビアインキの拡大。
- ✖ 東南アジアの生産拠点として、マレーシアでのオフセット・グラビアインキ、及びタイでのグラビアインキの増産体制の確立。
- ✖ 原材料費上昇に伴う、一部製品での収益減少。

グラフィックアーツ関連機器および材料

グラフィックアーツ関連機器
および材料

(単位：億円)

	売上高	営業利益
平成15年度 9月期実績	157	1
平成16年度 9月期実績	162	5
平成16年度 予想	330	10

通期の
施策

1. 協業メーカーとのグループ形成による新ビジネスモデルによる拡販
ワークフローシステムの構築
2. サカタインクスとの合弁子会社をフルに活用した仕入れとサービスに
よる顧客価値の創造
3. 産業用デジタル市場への新ビジネスモデルによる消費材の量的拡大

実行
結果

- ✂ グラフィックアーツ関連材料は、国内はCTP用版材が伸長。
海外は香港・中国で伸び悩み。
- ✂ グラビア印刷用シリンダー製版事業は、設備増強による償却
負担増。
- ✂ グラフィックアーツ関連機器は、グループ内で開発した新聞用
の品質管理装置が引き続き好調。

下期の
展開

- ✂ 当社グループで製品開発した収益率の高い製品の拡販。
- ✂ 取扱い製品の集中化により、収益向上させる。
- ✂ システム・デジタル関連事業の整理統合と取扱い製品の見直し。
- ✂ 顧客の業務革新に対する提案の継続。

高分子関連材料

高分子関連材料

(単位：億円)

	売上高	営業利益
平成15年度 9月期実績	203	16
平成16年度 9月期実績	215	19
平成16年度 予想	436	37

通期の施策

1. エレクトロニクス、オプトロニクス、ライフサイエンス市場における粘接着剤、機能性コート剤、塗工材の群開発
2. 海外拠点の軌道化（中国・マレーシアなど）
3. 塗料の事業構造の改善

実行結果

- ✎ 缶用塗料は、PETボトル化や塗料の使用量の少ないラミネート缶への移行で売上は微増。
- ✎ 樹脂は、接着剤用や建築塗料用が好調。売上高は伸長。利益は国内・東南アジアとも原料高で厳しい状況。
- ✎ 接着剤関連は、消費税法の総額表示の切り替えでラベル用が伸長。猛暑でラミネート接着剤も活況。
- ✎ 塗工材事業は、エレクトロニクス関連テープが好調に推移。

下期の展望

- ✎ 新しい高付加価値製品群の市場投入を加速。
- ✎ 上海新会社の稼働による、樹脂・粘着剤の拡販。
- ✎ 生販技一体のトータルコストダウンを図る。
- ✎ さらなる原材費の上昇による厳しい状況が続く。

化成品およびメディア材料

化成品およびメディア材料

(単位：億円)

	売上高	営業利益
平成15年度 9月期実績	257	34
平成16年度 9月期実績	286	55
平成16年度 予想	570	100

通期の施策

1. メディア材料、スペシャリティ製品に対する経営資源の集中化
2. 汎用顔料・着色剤については、国内外を通し、選択集中による事業再構築で収益力を向上
3. カラーフィルター用材料はナノレベルの合成、分散、微粒子制御技術を極め、世界一の技術提供を継続
4. 国内外・関係会社も含めた事業連結による利益の最大化
5. 天然色素等スペシャリティケミカルズ事業に注力

実行結果

- ✦ 化成品では顔料は、高機能性顔料が好調に推移。ヨーロッパは引き続き売上は伸び悩むなか、不採算事業の整理で利益は回復。
- ✦ プラスチック用着色剤は、容器市場・自動車市場を中心に好調。海外は北米の自動車、中国の家電で拡販が進んだ。
- ✦ メディア材料は、液晶ディスプレイカラーフィルター用材料が国内・台湾ともに大きく伸長。記録メディア向けバックコート材も高記録密度対応により好調。インクジェット材料、有機EL材料も実績が上がった。

下期の展望

- ✦ 液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は、現在、調整局面をむかえているが、今後、品質による差別化で伸長させる。
- ✦ 化成品事業は、スペシャリティに集中して収益向上を図る。また、製品・原料の整理と生産体制見直しによる徹底したコストダウンを実施。
- ✦ プラスチック用着色材は、北米・中国・アジアでの拡販の推進。

(単位：億円)

	平成15年9月		平成16年9月		業績 Review
	売上実績	営業利益	売上実績	営業利益	
1. 日本	878	26.2	948 (7.9%)	53.6 (104.3%)	オフセットインキが価格競争の影響で伸び悩んだものの液晶ディスプレイカラーフィルター用材料が大幅に伸長。そのほかの製品も概ね好調。原料費の上昇があったもののトータルコストダウンで対応。不採算事業、商品の整理を推進。
2. 中国・アジア ・オセアニア	165	14.9	183 (11.0%)	12.7 (15.2%)	中国は印刷インキが堅調に推移したものの輸出主体の顔料が伸び悩み。上海新会社の開業費の償却が発生。東南アジアでは拡販により売上高伸長するも原料費が上昇し利益面は厳しい状況で推移。
3. ヨーロッパ	40	2.5	39 (3.0%)	1.2 (***)	ユーロ圏での経済沈滞のなか、主力の顔料が安価な中国品の攻勢で価格競争が続き販売面は厳しく推移。利益面では不採算事業の整理により、赤字幅が大幅に縮小。
4. 北米	37	1.1	44 (19.6%)	1.1 (2.1%)	自動車向けのプラスチック用着色剤が好調に推移。グラフィックインキ、顔料、新しく開始したメディア材料も好調だったが、枚葉インキの需要が回復せず利益面で伸び悩んだ。
連 結	1,059	39	1,124 (6.1%)	69 (75.7%)	

(単位:億円)

	平成15年度 中間期 売上高	平成16年度 中間期 売上高	増減率	平成16年度 売上目標	平成15年度 中間期 営業利益	平成16年度 中間期 営業利益	増減率	平成16年度 営業利益 目標
日本	878	948	7.9%	1,859	26	53	104.3%	94
中国・アジア ・オセアニア	165	183	11.0%	389	14	12	15.2%	25
ヨーロッパ	40	39	3.0%	88	2	1		0
米国	37	44	19.6%	98	1	1	2.1%	3
小計	1,122	1,215	8.3%	2,434	39	66	66.2%	122
消去又は全社	62	90		184	0	3		0
連結	1,059	1,124	6.1%	2,250	39	69	75.7%	122

ドメイン別主要新製品	半期売上小計	目 標
環境調和型印刷・包装資材材料事業	81.0億円	
オフセット環境対応新製品 RC(UV, EB)インキ新製品群 ノントルエン包装グラビアインキ 印刷物連続検査システム 他	(年間目標に対する 進捗率 54%)	通期売上目標 150億円 → 165億円
機能性材料事業	28.7億円	
光学・電子・メディカル用粘着剤 環境対応マーキングフィルム 高機能性エマルジョン 抗菌関連製品 他	(年間目標に対する 進捗率 96%)	通期売上目標 30億円 → 60億円
電子・情報材料事業	81.4億円	
カラーフィルタ用レジストインキ 有機EL 記録媒体用バックコート材料 他	(年間目標に対する 進捗率 54%)	通期売上目標 150億円 → 165億円
合 計	191.1億円	通期売上目標 330億円 → 390億円 に上方修正

(単位:億円)

	印刷インキ		グラフィックアーツ 関連および材料		高分子関連 材料		化成品および メディア材料		その他		消去又は全社		合計	
	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)
平成 14年度 9月期	427 (0.7)	43 (12.1)	158 (5.2)	4 (***)	212 (5.7)	20 (13.7)	261 (4.8)	41 (55.0)	56 (7.3)	1 (49.9)	35 (***)	53 (***)	1,081 (0.7)	48 (64.4)
平成 14年度	873 (0.7)	90 (11.0)	331 (12.5)	5 (***)	416 (2.6)	36 (14.2)	525 (5.2)	68 (19.5)	103 (14.3)	3 (***)	80 (***)	105 (***)	2,170 (2.4)	80 (16.6)
平成 15年度 9月期	425 (0.5)	44 (1.6)	157 (1.0)	1 (***)	203 (4.2)	16 (16.1)	257 (1.6)	34 (16.9)	47 (16.5)	0 (***)	30 (***)	56 (***)	1,059 (2.0)	39 (18.2)
平成 15年度	850 (2.6)	91 (0.6)	336 (1.5)	6 (***)	407 (2.1)	36 (0.1)	534 (1.8)	78 (13.5)	95 (7.8)	1 (***)	61 (***)	116 (***)	2,164 (0.3)	94 (16.7)
平成 16年度 9月期	429 (1.0)	46 (4.1)	162 (3.7)	5 (443.6)	215 (6.0)	19 (13.7)	286 (11.0)	55 (61.2)	62 (32.6)	2 (***)	31 (***)	59 (***)	1,124 (6.1)	69 (75.7)
平成 16年度 (予想)	886 (4.1)	91 (0.1)	330 (2.0)	10 (54.1)	436 (7.0)	37 (2.4)	570 (6.6)	100 (27.8)	89 (6.6)	5 (***)	61 (***)	121 (***)	2,250 (4.0)	122 (29.2)

進めてきた基本的な考え方

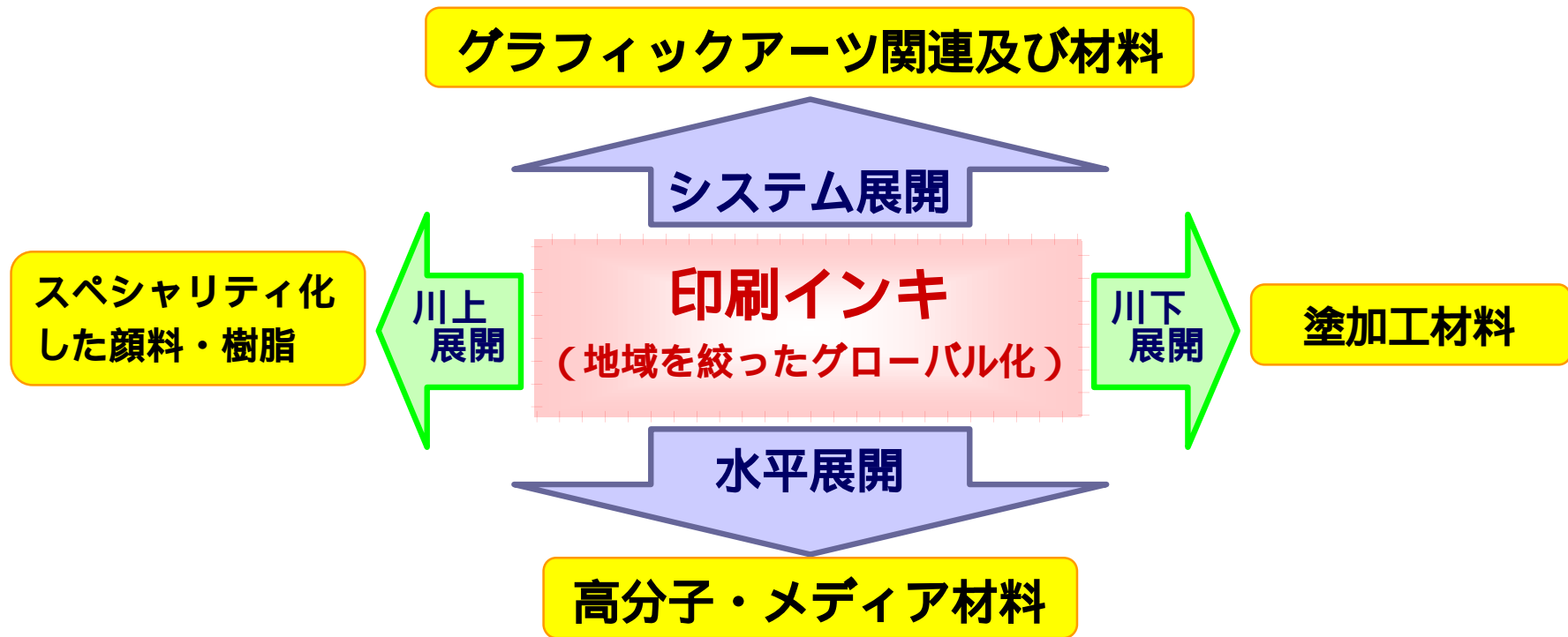
- ➡ 成熟産業向け材料は先行投資してもトータルコストダウンを達成する
- ➡ 化学企業としての社会的責任を果す
- ➡ スペシャリティケミカル/ファインケミカルに焦点をあわせた開発によって成長モデルをつくる
- ➡ 世界の未開拓市場をグローバルのチャンネルを使って開拓する

発揮されてきた効果

- ➡ インフラ整備の先行投資効果
1) 効率向上
2) 来期から減価償却費の低減へ
- ➡ 環境関連整備投資が一段落
- ➡ 新製品・新規事業の開発 / 投資効果
(台湾彩光、NP21など
~ **開発経営力**)
- ➡ 世界市場での開拓効果
(中国、ベトナム)

利益確保の地盤強化

- ■ スペシャリティ化 / ファイン化には、新しいネットワーク / 販売チャンネルが必要
- ■ 価値にこだわる経営力が必要（開発、マーケティング、技術）
機能だけでなく、環境、システムで差別化
- ■ 独自の材料と独自の技術によるスペシャリティ化



開発経営力によってめざす開発姿勢

■ 「環境」にこだわる

- ✎ 印刷インキや塗料などで安全・安心な材料を使う
- ✎ さらに、水性化、無溶剤化など

■ 「機能性価値」を付加することにこだわる

- ✎ キーマテリアルをオリジナルの技術で自製化する

■ スペシャルティケミカルにこだわる

- ✎ ナノ分散や高純度化などでエレクトロニクス、液晶関連材料など

■ ファインケミカルにこだわる

- ✎ 健康に寄与するナチュラルプロダクツなど



R&D推進状況と見通し

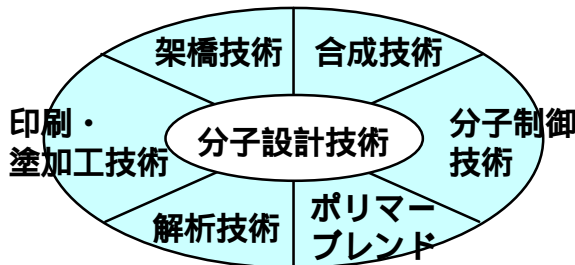
ファインケミカル・環境対応新製品・新事業の拡大推進

成長に向かうドメイン

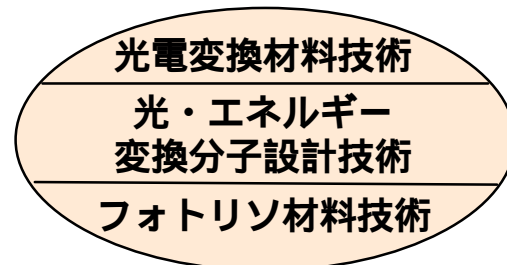
色素と色彩テクノロジー



ポリマーテクノロジー



光電子材料テクノロジー



環境調和型印刷インキ・
コンバーティング材料事業

機能性材料事業

電子・情報材料事業

ナチュラルプロダクツ
事業の深耕

オプト-エレクトロニクス
融合領域を意識した事業強化

戦略開発ユニット群

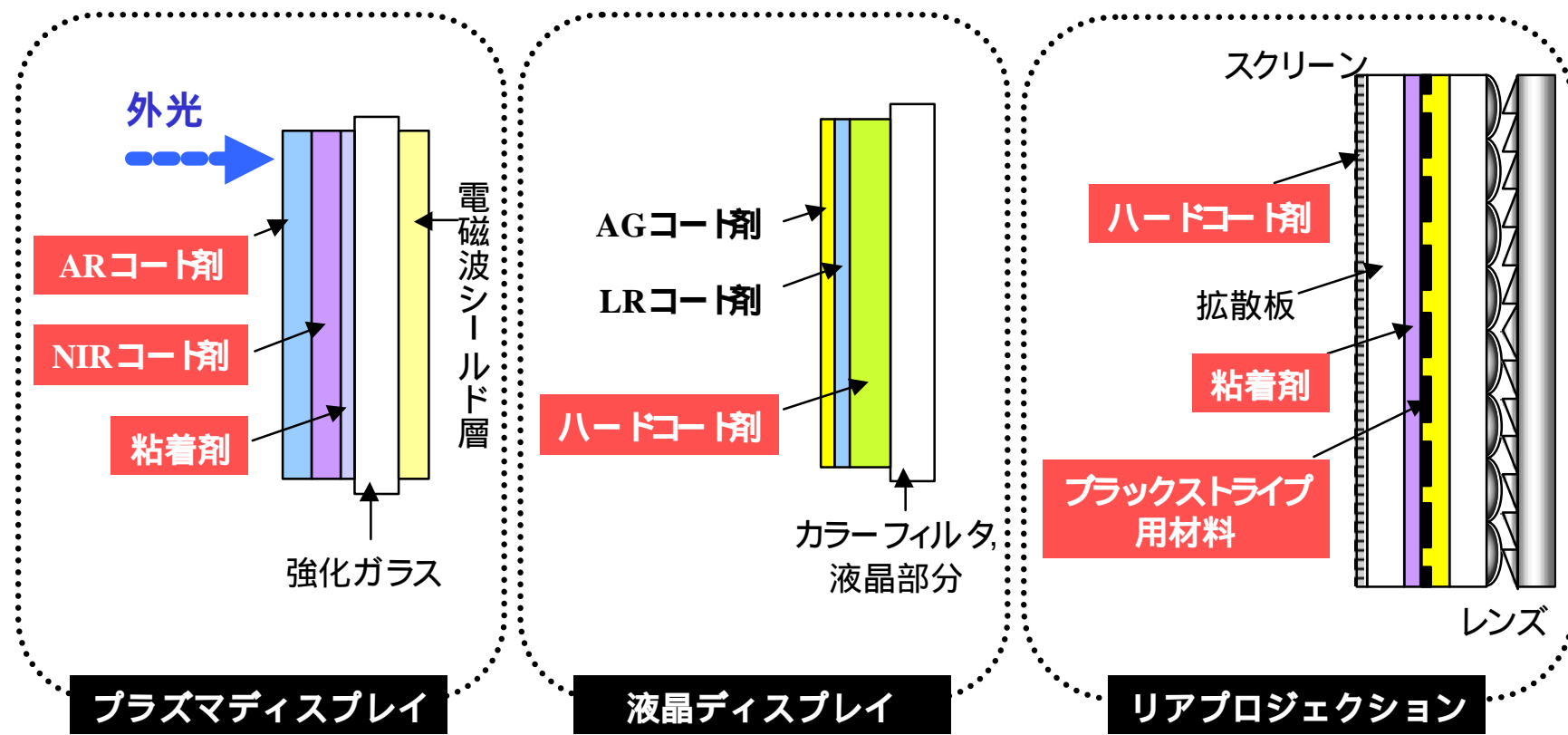
NEXT21開発プラン（2003～2006年）→ NP21
戦略的開発ユニット 重点投資（新製品・新事業創製）

表示デバイス周辺材料開発	光学制御コーティング剤 （アッセンプリマテリアル）
有機EL材料開発	ディスプレイ用素材 バックライト用素材
太陽電池関連材料開発	グレッツェル型色素増感セル用 色素および電極材料
レジスト材料開発	ICパッケージ用レジスト 光開始剤
導電・FPC関連材料開発	RF-IDタグ印刷アンテナ用インキ FPC関連の粘接着剤
バリアーコート剤開発	食品包装用コート剤
ナチュラルプロダクツ開発	天然色素 植物抽出エキス

表示デバイス周辺材料開発 (アッセンブリマテリアル)

光学制御フィルム用材料

ディスプレイに照明や太陽光などの映り込みを軽減させる光学制御機能を発現するコート剤等を順次開発しており、下図製品(■ で表示)は量産試験を終え、上市段階に達している。



有機EL材料開発

- 赤蛍光発光材料（低分子蒸着型）は上市済みであり、高色純度・高効率・高寿命でほぼ業界標準となりつつある。
- 低分子蛍光輸送、注入材料や更に次世代EL材料として、高発光効率が期待される燐光材料などの素材も開発する。
- 高分子型（塗布印刷型）は高発光効率（緑）を達成し、デバイス適性の向上を目指す。

太陽電池関連材料開発

- ルテニウムフリーの新規構造色素の効率はルテニウム色素比90%に到達し、サンプル提供を始めた。
- フィルム電極を目指し、低温処理可能な高分散電極用ペーストを開発した。フレキシブル太陽電池の可能性を高めた。

レジスト材料開発

- 高精細のICパッケージ絶縁材料はユーザー評価が始まり、次世代MPUでの採用を目指す。
- 光開始剤は、現行品にディスプレイ用途に特化した機能を付加した光開始剤を開発し、フォトリソ製品の差別化を図る。

導電・FPC関連材料開発

- ✖ RF-IDタグのアンテナ用銀インキ：薄膜・低抵抗型ペーストを開発し、ユーザーでアンテナの量産試作段階に達している。
- ✖ タグの製造コストの低減を図るため、生産性の高い印刷インキを開発中である。

バリアーコート剤開発

- ✖ 食品包装フィルムに適用できる酸素バリアーコート剤は、量産試作段階に至った。

ナチュラルプロダクツ開発

- ✖ 実績のある紅花の赤色や黄色の色素の他に、天然系の青色色素の抽出条件を確立した。
- ✖ 笹エキスの抽出条件、エキス成分、効能の対応データを取得し、マスクやフィルタに展開を図った。
- ✖ 天然物が持つ生理活性成分（抗菌性など）を抽出し、健康食品、化粧品、医療品などの分野に展開する。
- ✖ 卵インキジェット印刷によるトレーサビリティシステムの展開開始。